2016年市議会2月通常会議　請願

請願第１号　避難計画や安全性の確保ができないまま、豊かな水源・びわ湖と大津市民をはじめ滋賀県民の生命をないがしろにして高浜原発３号機が再稼働したことに抗議し、稼働停止を求める旨の意見書の提出を求めることに関する請願

避難計画や安全性の確保ができないまま、豊かな水源・びわ湖と大津市民をはじめ滋賀県民の生命をないがしろにして高浜原発３号機が再稼働したことに抗議し、稼働停止を求める旨の意見書の提出を求めることに関する請願

【紹介議員：共産党】

関西電力は、１月 29 日、高浜原発３号機を再稼働させました。高浜原発をめぐっては昨年 12 月末、再稼働を差し止めた４月の仮処分決定を、福井地裁が取り消したばかりです。それからわずか１か月後の再稼働です。同時に、関西電力の 2016 年３月期の連結純損益が、1,500 億円の大幅黒字になるとの業績予想を発表しました。高浜原発の営業運転により、月約 100 億円、収益が改善される計算です。

この再稼働にあたり、地元同意は従来通り、原発の立地県・立地自治体に限定されました。これでは民意を十分にくみ取ったとは言い難く、大津市民をはじめ滋賀県民の生命をないがしろにするものです。住民の安全より金勘定を優先する姿勢のあらわれと言えます。

国の、原子力災害に対する指針は被ばくを前提としています。安定ヨウ素剤の配布・服用方法の具体化は進まず、要援護者などの逃げ遅れる人々についてどうするのか、避難において基本である避難先の具体的なマッチングもできていないなど、避難計画は不十分なままです。

東京電力柏崎刈羽原発などで原発の新規制基準に違反してケーブルが敷設されていた問題では、原子力規制委員会は１月６日の定例会合で、全国の原発に同じ問題がないか調査するよう電力各社に対して指示し、今年３月末までに報告を求めることを決めましたが、すでに審査に合格した九州電力川内原発と関西電力高浜原発３、４号機は免除されました。規制基準に違反してまで再稼働を優先するのではなく、安全確保のためには高浜原発の稼働を止め、きちんと検査確認をするべきです。

また、高浜原発３号機は、プルトニウム・ウラン混合酸化物（ＭＯＸ）燃料を使うプルサーマル発電です。この燃料は、原子炉の核分裂を調整する制御棒の効きが悪かったり、強い放射線を出したりし、危険性が高いといわれていますが、そればかりではありません。ＭＯＸ燃料を使った後に出る「使用済みＭＯＸ燃料」の処分方法が決まっていないままなのです。目先の利益にとらわれ見切り発車を続けることは、未来にツケを回すだけです。

福島原発事故から５年が経ちますが、収束も原因解明もなされていません。メルトダウンした核燃料の状況は全くつかめず、再臨界の恐れもあります。すでに 116 人の子どもたちが甲状腺の手術を受けたとの報道もされており、時が経つにつれ事故の深刻さが浮き彫りになるばかりです。自然災害とは異なり、原発事故とはそのようなものです。

高浜原発も重大事故の可能性は否定できません。万が一事故が起これば、広範囲に、そして長時間影響が及ぶことは明らかです。滋賀県による高浜原発に隣接する美浜又は大飯原発の重大事故時のシミュレーションに基づく放射性物質のびわ湖への影響予測（最終報告）の県検討会議（2014 年１月 21 日）では、飲料水の摂取制限基準の超過水域が最大で北湖で 30%、南湖で 40%にも達し、10 日から７日間以上続くことが明らかになっています。さらに、その飲料水対策がまったくなく「各家庭のペットボトル」「自己責任」で結論付けられ、また山林を含む陸地に降下した放射性物質が河川、農地やびわ湖に流れ込むことによる農作物の汚染や生体濃縮の危険性については検討されてもいないのです。びわ湖は海とは違い、周りが山で囲まれていて、滋賀県内に降る雨や雪の水は全てびわ湖に流れ込み、流出は琵琶湖疏水を除けば瀬田川に限られるため、汚染されれば放射性物質は

拡散して薄まるどころか溜まっていく一方です。漁業は大打撃を被るばかりか二度と出来なくなる可能性もあります。事故時には、こうしたびわ湖の深刻な汚染が起きるにも関わらず、なんら対策がとられていない段階での再稼働は、大津市民や滋賀県民、ひいては近畿 1,450 万人の命を事故時に死の淵に追いやるものといっても過言ではありません。

よって大津市議会として、国に対し、避難計画や安全性の確保ができないまま、豊かな水源・びわ湖と大津市民をはじめ滋賀県民の生命をないがしろにして高浜原発３号機が再稼働したことに抗議し、稼働停止を求める旨の意見書を提出するよう請願します。

請願者：市民４名